

教育目標

- げんきな子
- よくかんがえる子
- なかよくする子

おひさまきらきら えがおいっぱい なんざんようちえん

港区立南山幼稚園 NANZAN Kindergarten



10月園だより

〒106-0046

港区元麻布 3-8-15

平成30年9月28日

【親子運動会に向けて

取り組んでいます】

5歳児のバルーンの取組を
そばで見ている3歳児



4歳児のペンギンダンス
上手に円になれました



3歳児

こぶたになりきって、リズム
に合わせて遊びます



【5歳児と5年生の交流】

「はさみと紙のハーモニー」



「過程」を大切に

園長 小久保 篤子

子どもたちの遊びを見ていると、思わぬところでの発言にドキッとさせられることがあります。ある日、「幼稚園を辞めようと思う」と私に真剣な表情で相談してきた子どもがいました。「辞めてどうするの?」と尋ねると、「家にいる」という応えが返ってきました。「毎日、家にいて何するの?」とさらに尋ねると少し考えて困った表情を見せました。心の奥に何かありそうです。なぜそのような発言に至ったのか、その後、担任と話していると、どうやら勝敗のあるゲームで負けてしまい、その気持ちのやり場に困っていたということが分かってきました。「負けた時の悔しさ」と言っても、子どもによって気持ちの表出の仕方は様々です。

園では、保育後、担任がその日の保育を振り返り、子どもたちの遊びやその時の様子を読み取りながら、教師はどのように関わればよかったのかを反省し、幼児理解や翌日の遊びにつながるようにしています。「今、こんなことを楽しんでいるのだな」「子どもたちは、そう思っていたのか」「きつところ思っていたかもしれない」などと幼児の行動から読み取れることを紐解いていくと、大人の想像以上に幼児の行動には理由があり、子どもの思いの深さや考えていることの重さに気付かされます。

幼児が遊びを進めていく過程では、様々な感情体験をします。うまくいかずにくじけそうになっても、「やりたくない」と言っても、幼児の心の動きに沿って共に教師も心を動かしたり、知恵を出し合ったりするなどして教師が柔軟に応じていくことで、幼児が自分の力で課題を乗り越え、自分の力で行うことの充実感や満足感が味わえるようにしていきたいと考えています。

そのためには、子どもの行動に関心をよせ、子どもからの発信をキャッチし、言葉にならないサインを感じ取れるよう、教師自身もしっかりと感性を磨き続けなければなりません。頑張ります!

今年度も後半に入りました。10月22日、本園は開園84周年を迎えます。様々な行事の折に、保護者の皆様、地域の皆様にはご協力を賜りますが、どうぞよろしくお願いいたします。

